

## さかさ

構造 (structure) とは、機能を満たす形を、様々な外力に逆らい地上で安定させることである。こと、キャンチレバーと言われる構造形式においては、設計者はあらゆる手段を講じて“重力”に抗ってきた。

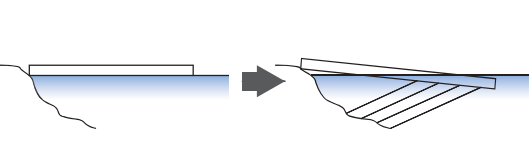
「さかさ」では水による“浮力”を用い、重力から解放された新しい視点のキャンチレバーを提案する。

### I) theme 重力に逆らう



地球上では重力から逃れることは出来ない。これは自明の理である。重力にとらわれない方法とは？

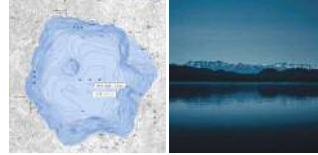
### II) diagram 浮力利用・湖中に引き込む



長期的な鉛直上方向の力=浮力の利用を考える。ただし、浮かべるだけでは安定的な構造物にはならない。

重力より大きな浮力をはたかせる。構造物にかかる鉛直上向きをワイヤーで“吊り下げる”

### III) site 日本一深い湖・田沢湖\*



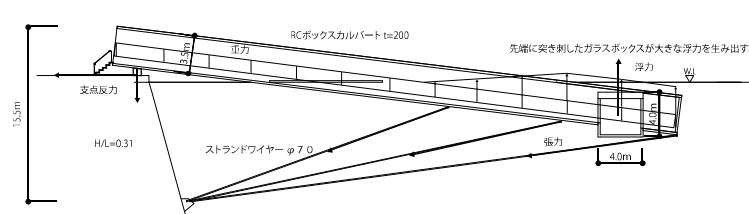
日本で最も深い湖の田沢湖を敷地とする。水位変化が少なく、安定した浮力を得る。岸から急に落ち込む地形に対し、片持ち構造物の優位性を最大限に活かす。

### IV) program 見下げるミュージアム

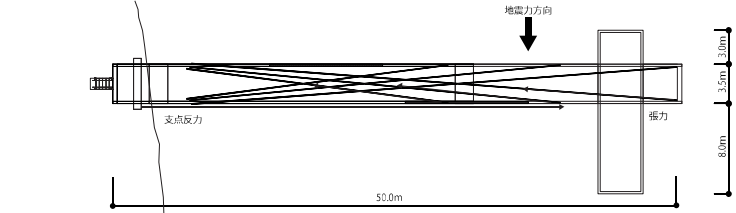


水深70mまで日光が入り込むほどの透明度を持つ田沢湖。深さの体感と、長い時間をかけて水質が回復・水生生物が復活していく様を観察する。体感型ミュージアムを計画する。

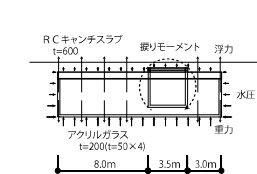
### V) 浮力による鉛直上向き力をワイヤーにより“さかさ”に吊り下げる



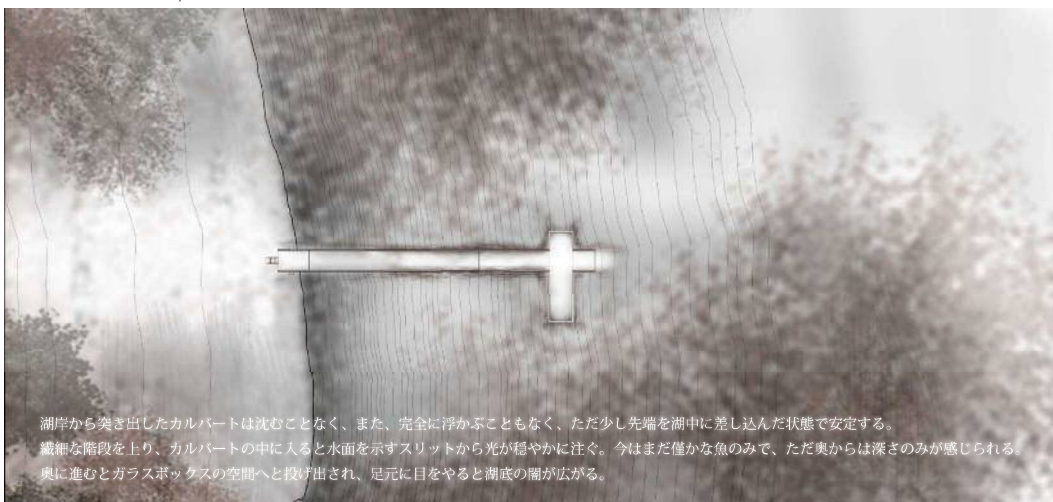
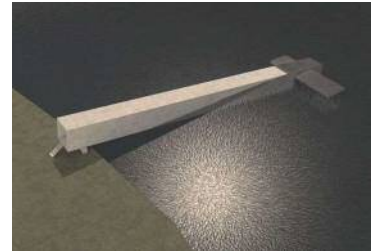
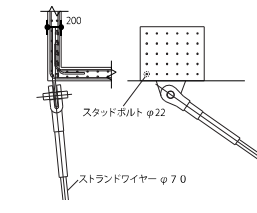
### VII) 地震力は斜めに張ったワイヤーで処理する



### VI) ガラスボックスの浮力を居根面の“さかさ”キャンチスラブで処理する



### VIII) 明快な構成を実現するディテール



湖岸から突き出したカルバートは沈むことなく、また、完全に浮かぶこともなく、ただ少し先端を湖中に差し込んだ状態で安定する。繊細な階段を上り、カルバートの中に入ると水面を示すスリットから光が穏やかに注ぐ。今はまだ僅かな魚のみで、ただ奥からは深さのみが感じられる。奥に進むとガラスボックスの空間へと投げ出され、足元に目をやると湖底の闇が広がる。

